歯科医師
妹尾ゆかり
（代々木歯科）

入れ歯が入らなくなったら

隙間を埋めるため歯が移動する！

－その21－

今年4月から病棟に往診に行かせてもらっているのですが、その理由は「入れ歯が合わない」、「入れ歯を作って欲しい」、「歯がグラグラしている」、それと多いのが「部分入れ歯が入らなくなった」です。ずっと入れていなかったという方や、今回の入院がきっかけで、という方もいらっしゃいます。

入れ歯の入らなくなる理由

では、なぜ入れ歯は入らなくなるのでしょう。

歯は隣や噛む相手がなくなると出来た隙間を埋めるため、そちらに移動するようにできています。

鉤（注）を掛けている歯が移動してしまったら入れ歯は入らなくなりますし、他の周囲の歯が動いても入らなくなる場合があります。ただ、人によって、また歯によって動きやすさが違います。

歯周病になっている歯は元々グラグラしているので動きやすいです。歯の数の少ない方も上下14本ずつで支えるべき力を少ない数で支えるので動きやすいです。

どう対処するの？

入らなくなった入れ歯はどの歯が原因か調べてその部分を削ったり、鉤を一旦外して付け直したりして修理できる場合と、作り直しをしなくてはならない場合があります。

修理の場合でも代々木歯科に持ち帰って修理する場合もあります。その違いは歯の動いた量でも変わりますし、入れ歯の種類にも左右されます。そもそも入れ歯が全然合っていない場合は修理をしても合いません。

さまざまな例がありますが、患者さんの嚥下に問題がなく入れ歯を入れて食事の形態があがるのなら、入れ歯を入れて食べるべきです。

ぜひそのお役に立てればと日々努力しています。歯が大きく動くその前に、入らないなと思ったらその時点で早めの対処が大事です。看護師さんに相談してください。

注）鉤（こう、クラスプ）。部分入れ歯を歯に留めるための金属

サプリメントに頼らない生活

薬剤師　藤竿伊知郎（外苑企画商事）

（6）安全が気になるイチョウ葉茶

イチョウ葉は、「血液循環を良くする」「ボケを予防する」として売られています。高齢化が進み、認知症患者は65歳以上人口の10％（242万人程度）に達しているため、人気商品となっています。

イチョウ葉エキスは、ドイツで1960年代に開発され、記憶障害、耳鳴り、めまいの改善に対して使用を承認されました。しかし、日本で売られている健康食品は、効果を実証するデータがありません。

品質の問題も出てきています。イチョウ葉にはアレルギーを引き起こす物質が含まれています。銀杏の実を包む果肉で、かぶれを起こす成分です。湿疹を起こすだけでなく、重い場合は呼吸困難を起こします。

2002年11月、国民生活センターは、ドイツの規制値の8万倍もの量が含まれている商品や、薬効を示す成分がほとんど含まれていないものも流通していると、警鐘を鳴らしました。

有害物質が溶け出しやすいティーバッグは特に危険です。しかし、警告は忘れ去られ、健康茶として今でも販売が続けられています。

イチョウ葉エキスをたくさん摂取すると肝臓の薬物代謝酵素が誘導され、医薬品の効果を弱める可能性があります。一方で、血液を固まりにくくする薬の作用を増強し、出血傾向が出ます。服用するときは、主治医・薬剤師にお伝えください。

将来、有用な薬になる可能性もありますが、予防で使うには効果が弱く、一カ月あたり数千円の費用を使うことはもったいないと考えます。

新連載　東葛病院　建て替えニュース　No.4

２階の柱を建設中。写真奥の高架の線路はつくばエクスプレス、遠くに富士山が望めます

東葛健康まつりにおける新病院建設委員会のブース

10月号では東葛病院建て替えニュースをお休みしていましたので、1か月の間に工事も順調に進みました。

まず、9月上旬には2階の建設が始まり、梁を設置しながらデッキをのせていき、9月の中旬過ぎにデッキの半分ほどが敷き詰められました。

続けてコンクリートの注入が開始され、固まるのを待ちすぐに柱の建設が始まりました。流れ作業でドンドン進みます。

一方で7月24日から約1カ月の間、新病院の病室（個室、4床室）の実物大の模型を設置。職員を中心に430人以上が訪れ、意見などを出し合いました。患者さんの療養環境改善と職員の働きやすさを兼ねそろえた病室となります。

くすりの話あれこれ 99

今年３月に承認されたある新薬について

間　規子（薬剤師・たくみ外苑薬局）

それは新型インフルエンザの薬です。今年3月に承認されましたが、有効性・安全性の問題が解決されておらず、いまだ発売許可はおりていません。しかし、この薬がエボラ出血熱に効くかもしれないと注目されています。この記事が出る頃にはその結果が報道されているかもしれません。

期待の大きい新薬ですが、薬だけに未知の部分にある危険性をどれだけ防げるかが重要になってきます。治療薬のないエボラ出血熱に使用するのだから、効果も危険性も不確かだが使って当然とはいきません。ＷＨＯ（世界保健機関）の対応も慎重でした。

今回は、この新薬が承認に至るまでの試験や調査、審議をまとめた報告書から、この新薬について知ってもらいたい2点について書いてみました。

①使用できるのは新型インフルエンザ感染症だけ。一般のインフルエンザには使わせない！

②催奇形性―奇形の子どもが生まれる危険性がある。

①については、これまでのインフルエンザ治療薬との比較試験では、この薬の方が劣る結果がでています。しかし、新型に対しては、実験レベル（細胞や動物）で、これまでの治療薬にはない効果が認められたため、単なるインフルエンザには使わせない！新型だけ！という結果になりました。

②については、厳重な管理下での臨床試験でさえも、注意違反がありました。厳重注意したところで市場に出たらそれは無意味だと、審査段階で強く指摘されています。

かつて催奇形性の危険性を世にしらしめたサリドマイドが、現在、使用する医師と患者双方に厳重な管理を強いて、血液癌の治療薬として使用されていますが、同レベルの扱いになる予定です。

エボラの状況だけでは、この薬の「夢」や「希望」の情報しか入ってきそうにありません。まして、助けたいと思うのが医療人の心情、悪いニュースには弱気な対応になってしまいがちです。

しかし、治って元気になりたいから、効果だけでなく、安全性もしっかり考えてほしいという患者さんのアピールこそが、薬を安全・有効に使用する勢力の要となります。必要な薬を有用に使うために、これからも薬を吟味し、大事な情報をきちんと伝えていきたいと思います。

渋谷区・石井和子